

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 里心会
施設名	西東京ユーカーリ保育園
報告者（役職）	知見寺 志津子（園長）
住所・連絡先	東京都西東京市下保谷 5-13-15
	☎ 042-439-6504
	E-mail nishitokyo.yuukaril@outlook.jp

### ○タイトル（保育計画）

楽しく運動、豊かな人間性の育成

### ○主な助成備品

跳び箱、マット、巧技台、平均台、滑り台、はしご等

## 1. 保育計画策定の目的

西東京ユーカーリ保育園は園庭がなく、子どもたちは天気の良い日には戸外に散歩に出かけているものの、施設内においても子どもたちが体をたくさん動かし遊ぶことのできる環境を作りたいと開園当初より考えていた。

近年、子どもたちが運動不足の傾向にあることに危機感を覚えており、乳幼児期に身につけておきたい「36の基本的な動き」（文部科学省）を意識しながら、まずは子どもたちが、日常の運動遊びの中で体を動かす楽しさの経験をたくさん積み重ねられるような環境を整える目的でこの保育計画を策定した。

運動遊びを通して、子ども自身が自らやってみようという意欲がさかんになり、子どもたちが主体的に生き生きと生活できるその基盤づくりができるように、これからも取り組んでいきたい。

## 2. 具体的な実施内容

### <1歳児クラス> 滑り台サーキット

巧技台と滑り台の板を組み合わせて滑り台サーキットを行った。1歳児前半は滑り台を座って滑っていたのが、後半になると滑り台の下から、何にも掴まることなく自身の足の力で上ることができるようになってくる。足の裏側を滑り台につけ、足の指に力を入れたり緩めたりしながら調節する様子が見られた。滑り台の先には巧技台で階段を設置しておく、子ども達なりに体のバランスを取りながら、腰を低くして階段のステップを下りる子がいたり、まだ前から階段を下りるのが怖い子は、自分で後ろ向きになって胸を階段につけ、ゆっくりと足を下す姿が見られた。

### ＜2歳児クラス＞ はしごサーキット

巧技台とはしごを組み合わせてサーキットを行う。2歳児は低く横に、少し角度をつけてはしごを設置した。手と足を交互に前に出して前進し、スムーズにはしごを渡っていた子もいれば、前に出した手の位置に足を乗せ、その位置からさらに手を前に出すことが難しい子、はしごの下の床に足を下ろしてしまう子もいたが、繰り返しているうちにコツがつかめるようになり、楽しそうに取り組む姿が見られた。



1歳児の滑り台サーキット



2歳児のはしごサーキット

### ＜3歳児クラス＞ 平均台を使った運動

平均台と巧技台をつなげて、まずはその平均台をカニ歩き（横歩き）しながら、右足を一步横に出し、そこに左足を揃える形で移動した。慣れてきたら、今度は正面を向いて足を前に一歩ずつ出しながら歩くことにチャレンジしてみた。左右の足を交互に前に出すことが難しい子もいたので、床にビニールテープを貼り、そのテープの上を歩いてみることから始めてみた。慣れてくると、平均台を渡る時には、体のバランスを取ることが大切であることに気がつき、自然と手を左右に広げている子の姿もあった。



3歳児 平均台を使った運動

#### <4、5歳児クラス> 跳び箱、マットを使った運動

4、5歳児は、主に跳び箱やマット運動を行った。跳び箱運動を導入する前に、まずはマットで前転や開脚前転などを行い、自分の腕の力で自身の体を支えることを覚えた。腕の力が弱い子が多く、自分の体重を支えることができずにいたので、合間に手押し車などの運動も取り入れると、踏ん張ろうとする姿が見られるようになった。そこで、今度は跳び箱を横向きに設置し、その上によじ登り、ジャンプして降りる運動から始めた。慣れてきたところで跳び箱をたて向きにし、ロイター板も設置してみると、徐々に勢いをつけてロイター板で踏み込んで跳び箱の上に飛び乗ることができるようになってきた。発達の違いから4歳児はまだ手のつく位置がわからなかったり、ロイター板の前で止まってしまう子も多いが、5歳児は手と足の連動がスムーズにできるようになってきており、開脚をして跳び箱を飛び越すことができるようになった子は、とても自信に満ち溢れていた。



### 3. その成果と評価

- ・雨の日や夏場の戸外遊びができない日も、これらの器械運動用具を年齢や発達段階に応じて組み替え、様々な運動遊びを楽しみながら実践することができ、運動量も増やすことができた。
- ・このような用具を使った運動を取入れると、子ども一人ひとりの発達段階が把握しやすく、今後の発達の促し方に見通しが持てるようになった。
- ・クラスでこのような活動を行ったところ、できるようになった子の喜びを他の子どもたちが共有したり、「自分もやってみたい」と挑戦したり、頑張っている子を応援する姿が見られ、個人の運動能力の向上ということだけでなく、子ども同士の育ち合いにもなることが確認できた。

### 4. 今後の課題と展望

- ・保育室の広さや構造上の関係から、今年は運動用具を使用した運動遊びを各クラスで行ってきたが、例えばたてわり保育の中で活用していくのもクラスの垣根を越えて子どもたち同士が互いに成長し合うことができている良いかもしれないと思う。
- ・今後は、購入させていただいた器械運動用具の活用方法をもっと工夫し、さらにどのような楽しい運動遊びが子どもたちに提供できるのかを考えていきたい。

以上